

浜松西高 海外フィールドスタディ支援事業

西高100周年を機にスタートした人材育成支援事業「海外フィールドスタディ」は、その国の文化や熱気を肌で感じ取ることで、「社会貢献への高い志を持つ国際社会のリーダーとして輝く人材の育成」を目指しています。今回はタイ王国を訪問しました。



発行 静岡県立
浜松西高等学校同窓会
発行人 齊藤 薫
編集 町田 晃
編集委員 同窓会編集委員会
電話 053 (456) 0662



静岡県西部地域から海外進出している企業の、現地法人を訪問し、現地の人々との交流を通して、企業が現地でどんな貢献をしているのか、どんな苦労をしているのか、自身の目と耳とコミュニケーションを通じて肌感覚で知る海外研修になりました。

現在の高校3年生が2024年7月21日～26日の3泊6日の日程で、生徒20名、引率4名、計24名の訪問団で日本を出発しました。

タイ王国では、浜松いわた信用金庫の現地駐在事務所の支援を受けながら、(株)アツミテック、(株)ESP、エンケイ(株)、(株)クレステック、スズキ(株)、(株)ミヤキの現地企業で、駐在員や社員の方から熱心な説明や講義を受けることが出来ました。各企業様には大変お世話になりました。

また、泰日工業大学の生徒さんとの交流、バンコクやアユタヤ市内観光を実施するなど、非常に充実した研修となりました。

参加生徒の感想(一部)

●高井 和貴

企業に訪問し、お話を聞く中でタイに事業を展開することの利点にも新たに気が付きました。それはタイを拠点に事業がタイだけではなくよりグローバルに広がっていくということです。今回訪問した企業はスズキを除いて、遠州からタイへ進出する企業のサプライヤーとして、タイで日本レベルの品質の部品や

サービスを提供するために進出していました。しかし、それらの企業は日本でしていた事業を続けるだけではなく、新たな事業も始めていました。たとえばクレステックはボケトックという翻訳機を日本だけでなくタイ向けとして販売していました。そのほかにもミヤキではタイでEVの大量生産を始めている中国系企業を含む外資系企業との取引が増えているという話を聞きました。日本からタイへ、そこから世界へという企業が多いように感じました。

●西木 彩実

特に私の記憶に残ったのは、エンケイさんです。エンケイさんは自動車やオートバイのアルミホイールを作る会社で、タイだけでなく、他の国々でも日本と同じように生産をしているのですが、驚くべきことに日本と同じ種類をつくれるのはタイだけなのだそう。

ここでは無機質であるホイールを作っているため、会社全体として他の場所での有機質化を進めており、工場内で音楽を流したり、動物を育てたりしています。

そうすることで社員の心を豊かにできるように工夫しているそうです。

●安達 瑞姫

以前のスズキでは二輪車を中心に生産していましたが、現在は小型



● 窪野 月香
ミヤキでは、化学反応を用いた陽極酸化処理でアルミ製品の強化を

の船外機に変わったそうです。これはタイ国内の二輪車の需要の低下や他企業の影響が大きいことが影響しています。またスズキではボルトなどの部品を、日本からの輸入に頼らずローカル企業でつくられたものを全体の80%で使用しているそうです。これはタイで作るものの部品もタイで作る、という方針に沿ったものです。この4つの会社の企業訪問で私は、従業員の「心の育成」や「日本と同じ品質」といったように、日本の企業だけを見ていると気付けない部分に配慮されているのだと感じました。

● 岡村 曜太郎

文化の違いについても企業全体で行っていることがありました。それは、どの企業も日本で行っていることをタイの工場でもそのまま行なっているわけではないということです。文化・宗教の違いから、日本で当たり前であることがタイでは当たり前でなかったり、物事に対する認識の違いがあったりするため、そもそも日本の方式を、そのまま行うということが困難ということでした。

そのため、日本でもタイでも製品を作ったりサービスを提供したりするときの信念やそこに込める思いは一緒ですが、それを実現する過程は、工場がある国の文化に合わせて変えているそうです。

● 河合 香蓮

特に、面白いと思ったのは、ESPという企業の会社づくりで、社内の部屋の構造などから社員が関わり、テレビゲームやボードゲームができる部屋などが作られていました。これにより、社員の「会社に出勤する」ということに対するネガティブなイメージを減らすと共に、会社に関わる意識を育てることができそうです。

タイへ行って遠州から進出した企業を訪問して、初めて私は遠州の企業が日本から離れたタイでも人々の役に立っていることを知ることができました。

浜松に住んでいるにもかかわらず、浜松の企業がタイでこんなにも活躍していることを知らなかったのが驚きました。

今ではそのおかげで浜松がますます好きになったし、誇りに感じます。大学訪問では現地の大学生と交流することができました。大学生たちが好きな日本のアニメのことを、目を輝かせながら話してくれたり、何度も質問してくれたりして、日本の文化が海を超えて愛されているのを体感できてとても嬉しかったです。特に、日本の緑茶が好きだという方がいて、実際にお茶が有名な静岡県に行つて飲んでみたいと話してくれたのが印象に残っています。日本の文化が世界中でより多くの人に愛されるのいいなと思います。

今回の海外フィールドスタディにおいて、生徒の皆さんに伝えたかったのは、「国際文化の重要性」と「地元への誇り（地元愛）」という2つのテーマでした。現地では、自主的かつ積極的に国際交流に臨み、多文化環境の中でも臆することなくコミュニケーションを楽しむ生徒さんの姿が見られたようで、非常に心強く感じました。

また、地元企業の皆様をはじめとする多くの方々のご支援・ご協力のもと、無事に遂行することができました。当初掲げていた目的を、実際の体験を通じて達成できたことと確信しています。改めて、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

第一回
フィールドスタディを終えて

同窓会副会長 薩川 敏 (高31回卒)



参加した20名の生徒たちは緊張した様子で出発しましたが道中は真剣な顔と笑顔が絶えないとても楽しい有意義な研修になりました。帰りには何か大人に近づいたような顔つきに変わっていたように感じたのは私だけではないと思います。現地で協力していたいただいた浜松の企業の皆様にも心から感謝いたします。



新たな百年への
ご支援よろしく願います

同窓会長 齊藤 薫 (高23回卒)



同窓会長として、二期目の重責を胸に、皆さまとともに、次の100年へ向けた新たな歩みを進めてまいります。

昨年、母校は創立百周年を迎え、記念式典では新スクールソング「はばたけ西高」が披露されました。卒業生の佐藤賢太郎氏が在校生から寄せられた詞をモチーフに手がけたこの歌は、「知・仁・勇」の校訓をもとに、西山台から大空へ羽ばたく生徒たちを歌っています。今後とも在校生・卒業生をつなぐ象徴として、長く歌い継がれていくことを願っています。

また、皆さまのご支援のもと百周年記念事業として創設した「海外フィードバック基金」により、本年も第二回目となるタイ研修が実施されました。遠州地域から現地に進出している企業の訪問や大学生とのディスカッションを通して、生徒たちは国際的な視野と社会性を育む貴重な経験を得ています。10年間を基本として、地域から世界へとつながる学びの場を提供してまいります。

世界を生き抜く力

校長 中村 泰子



同窓会の皆様には、本校の教育活動に対し、日頃から多大なる御理解と御協力を賜り心から感謝申し上げます。この4月に本校に赴任いたしました。どうぞよろしく願っています。

社会環境や価値観が目まぐるしく変化する世界をよりよく生きるために、学力や知能である「認知能力」と、他者への思いやりや敬意をもって協働する力、やり抜く力などの「非認知能力」の二つの資質能力をバランスよく身に付けることが重要だと言われています。本校では校訓「知・仁・勇」のもと、豊かな知識と高い知性、豊かな心、たくましい力を育成してきましたが、この二つの資質能力の求めるものと重なることに気がきます。これから、たゆまぬ実践を通して、混沌の世界を生きる生徒たちの底力を作り、時代の変化に左右されない魅力を持つ学校であり続けるために、教職員一同、教育活動に邁進してまいります。同窓会の皆様には、今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

2025年 新春のつどい 収支報告書

(単位:円)

収入の部	科 目	金 額	摘 要
	広告売上	9,080,000	広告掲載先367件
	チケット売上	4,625,351	最終529枚 来場者人数474人
	寄付金	440,800	寄付
	雑収入	199,119	西高ガチャ196,800+ 預金利息(2,319円)
	本会計繰入	2,100,000	本会計より活動費として繰入
	合 計	16,445,270	

支出の部	科 目	金 額	摘 要
	会場費	5,199,500	グランドホテル会場費等
	印刷費	1,691,749	記念誌・チケット等
	会議費	1,795,387	幹事会・部会経費等
	通信費	328,956	案内・記念誌発送等
	事務費雑費	194,882	文房具、振込手数料等
	交際費	2,334,641	総会・フォーラム参加・ 部活動寄付・同窓会活動等
	渉外費	1,179,391	クライアントと打ち合わせ等
	その他	420,764	抽選景品等
	繰越	3,300,000	活動費返金および繰入金
	計	16,445,270	

上記のとおりご報告申し上げます。

静岡県立浜松西高等学校
第56回卒 2025新春の集い幹事会

幹事代表 恩田 隆太郎 ㊞
会 計 小野 峻 ㊞

上記のとおり正確に処理され適正と認めます。
令和7年4月26日

会計監査 大塚 哲雄 ㊞

2025年新春の集い代表幹
事を務めさせていただきました

恩田 隆太郎 (高56回卒)



2025年新春の集いテーマを【紡ぐ】とし、①西高創立百周年の歴史である「過去」を紡ぐ、②本会での同窓生との交流である「今」を紡ぐ、③そして次なる100年に向けて「未来」を紡ぐ、この3つの想いを込め、幹事会高56回の同級生と共に約1年を駆け準備

を行いました。準備をする中で西高100年の歴史に触れ、改めて母校である西高を深く知る機会となったこと、先輩方が築き上げた西高の誇りを感じる事が出来ました。

新春の集い本会では、第1部・第2部の2部構成にて会を行いました。第1部では、西高創立百周年記念事業とのタイアップとして、①現役生における海外フィールドスタディの報告会。②新スクールソングの発表会を企画しました。特に、新スクールソング発表では作詞作曲された佐藤賢太郎さん(高52回卒)を指揮者として迎え、現役生である吹奏楽部・弦楽部のフルオーケストラによる披露となり、圧巻のステージとなりました。

第2部では、小出隆司さん(高23回卒)の叙勲者表彰や高35卒先輩方の還暦のお祝いとして鏡開きを執り行いま

した。大勢の先輩方のお祝いが出来たこと大変嬉しく思います。本会の歓談中において、幹事会メンバーは各テーブルを回らせていただき、同窓生の皆様と世代を超えた交流を深め、西高への想いを皆様と一緒に紡ぐことが出来ました。テーブル毎での写真撮影により同級生の絆を深める場面や、世代を超えた方々の談笑する姿を多く見ることが出来たことがとても印象的でした。また、百周年記念事業で作製された「西高ガチャ」の再販に先駆け、先行販売を実施。当日用意した1600個の西高ガチャは全て完売となりました。結びとなりますが、本会開催において同窓会役員の方々からのご指導、同級生のサポート、そして多くの同窓生の皆様にご参加いただいたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。

2026年新春の集い

新たな100年の幕開け

代表 河田 宗樹 (高57回卒)



高57回卒 代表幹事の河田宗樹と申します。

浜松西高創立百周年の節目を越え、また新たな時代の扉が開かれようとしています。その中で、「2026年新春の集い」を開催できますことを心より嬉しく、また誇らしく思っております。今回の新春の集いのテーマは、「新(あらた)」です。私たち高57回卒は、入学時に中等部が設立され、西高に大きな転換が起こった年にあたります。また、私たちの代から高校入学者数は前年度に比べ約半数となり、制服も従来の学生服からブレザーへと変わりました。人数も環境も、そして姿かたちも「新たに」生まれ変わった私たちは、西高の「次の100年」の先陣を切る世代だと自負しています。

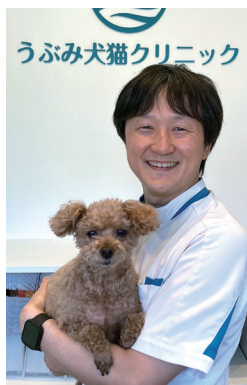
本会の準備にあたって、これまでの先輩方の約半数という態勢でありながら、「新たな挑戦」として、多くの工夫と創意を重ねてまいります。現在、高57回卒の幹事団は約30名で活動を進めております。

同窓生の皆様のあたたかい想いに支えられながら、「新」というテーマのもと、還暦を迎えられる高36回卒の先輩方をはじめ、すべての同窓生の皆様に感謝の気持ちを伝える場を、誇りをもって創り上げてまいります。

新たな歩み、新たな絆、新たな未来——私たち高57回卒一同、皆様のご期待に沿えるよう、全力で取り組んでまいります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

かかりつけの動物病院として、地域の方々のペットライフをサポート

副代表 金山 宗樹 (高57回卒)



2026年新春の集い 副代表幹事の
高57回卒金山宗樹と申します。

私は浜松市旧西区雄踏町に2022年にうぶみ犬猫クリニックを開院し、獣医師として日々犬猫の診療に奮闘しています。地域のかかりつけとして信頼していただけるような動物病院を目指し、飼主様のささいな不安ごとにも耳を傾け、その仔に合わせた最適な治療ができるよう心掛けて診察に臨んでおります。また、当院を信頼していただける地域の皆様に少しでも恩返しができるよう、浜松市獣医師会の会員として

て地域の動物福祉活動にも及ばずながら尽力させていただいております。

この度は同窓会幹事として副代表の役を務めることとなり、日々己のいたるところを痛感しております。しかし同時に、久々に会う同級生たちから良い刺激を受け、諸先輩方からは温かいご支援をいただき、自身がまた少し成長できたような日々の充実を感じております。そのような機会を与えて頂いたことへの感謝として、新春の集いを少しでも多くの同窓生の皆様に楽しんでいただけるよう邁進いたします。

新しい企画・運営にチャレンジしていきたい！

副代表 鈴木 絢也 (高57回卒)



2025年1月2日(新春の集い)、久しぶりに集まった同級生と会った時に、懐かしかった、とても楽しい時間であったことから、このメンバーとなら1年間の活動も乗り越えられと確信いたしました。

卒業してから20年のタイミングで、新春の集いの幹事学年となりますが、当然、学生時代とは違い、浜松にいるメンバーばかりではないですし、全員が仕事や家庭と本当に忙しいタイミングなので、副代表としては、みんなが動きやす

い環境をつくることを心掛けています。また、現役時代は野球部で、文化祭やいろいろな集まりにあまり参加出来なかった記憶がありますので、もう一度、学生に戻った気持ちで、還暦を迎えられる皆様、ご参加いただける皆様、そして幹事をする私たちも楽しめる会にしていければと思います。

理数科魂を忘れずに

副代表 藤浪 裕士 (高57回卒)



現在、千葉県職員として主に健康福祉行政に携わっており、入浴施設等のレジオネラ属菌対策に長く従事してきました。

一言で入浴施設の管理と申しまして、消毒薬の特徴や作用機序などの化学的な知識、細菌の特徴や病気の症状などの生物学的な知識、機械設備や配管の特性などの物理的な知識、温泉水中の地質由来の成分などの地学的な知識など様々な理科の知識が求められます。これらの知識を常にアップデートするだけでなく、課題の解決に必要なデータが存在しない場合には、自ら実験し解決につなげてきました。

私は、理数科に入学した当初、理科があまり得意ではありませんでしたが、様々な施設見学、先輩方の体験談、理

数科実験を通じて得た経験が今の考え方の基礎になり、仕事を進める原動力になっています。

私達の代で理数科は閉科となりました。また、これからは理数科魂を忘れずに新たなチャレンジを続け、社会への貢献をしていきたいと思っています。

高57回卒で新春の集いを もりあげます！

新しい100年のスタートとなるよう、新体制にて新春の集いを開催いたします。

電子チケットや、同窓会によるLINEの導入、HPの刷新等、皆様と一緒に「新春の集い」も時代の変化に対応していきたいと思っております。

至らないこともあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



第57回 活躍する同窓生

理想とする酒の味を求め、
新たな挑戦を続ける若き杜氏

和久田 健吾 (高57回卒)



▲洗米浸漬の作業の様子

浜松酒造(株)で杜氏として清酒製造を行っています。今年の秋の仕込みで5年目を迎えます。

西高在学中は理系クラスで生物を選択しており、微生物に興味を持っていました。その後、進学した東京農工大学の応用生物科学部醸造科学科で発酵を学びました。醸造科学というこ

とで実家が酒造業をしているような先輩、同期、後輩が多く在籍していました。彼らと交流していく中で清酒製造に興味を持ちました。文化的な産業でもある清酒製造を自身の手でやってみたい、そして地元で流通する酒を自分の手で造ってみたいという思いを抱いていましたが、良いご縁があり浜松酒造(株)で清酒製造を任されることとなりました。

浜松酒造(株)では浜松城の別名「出世城」を冠した純米大吟醸・純米吟醸・特別純米・純米酒・大吟醸・吟醸・本醸造の7酒類を毎年商品として販売しています。その他に季節ごとに原酒などの限定酒があります。

近年においては「全国新酒鑑評会」で大吟醸が金賞受賞。「第73回名古屋国税局酒類鑑評会吟醸酒の部」で優等賞受賞。「全国燗酒コンテスト2024」で特別純米 誉富士が「プレミアムぬる燗部門」で最高金賞を受賞しました。

コンテストのために酒造りをしているわけではありませんが、こうした機会を通して1人でも多くの人の手にとっていただき、日本酒の魅力に触れていただけたら嬉しく思います。業界にとっても良いことですし、造り手としても励みになります。

7酒類の通年商品について、それぞれの味の違いについては良く問われるところです。そこで、一言で分かりやすいように「純米大吟醸・ぶくよかだに」「純米吟醸・シャープだに」「特別純米・ジュシーだに」(以下略)といった具合にPOPをつけてうちの店舗では紹介しています。地元の言葉も取り入

れて紹介しているので観光客にも好評をいただいています。それぞれに個性がありますし、呑み方を変えることで無限大の楽しみができると 생각합니다。ぜひお試しください。

「新」な挑戦と言えるほどではありませんが、自分としては根幹となる味の部分はしっかり守りつつも、良い方向に進化しているねと言ってもいいような清酒製造をしたいと思っています。そのためにも7つの商品についても自分が理想とする味をもっと追求して違いを出していきたいし、必要な新たなことにも取り組んでいきたいです。

エンジニアの聖地
シリコンバレーで目指す
大きな挑戦

近藤 由実 (高57回卒)



現在、アメリカにあるGoogle本社YouTube広告部門で、ソフトウェアエンジニアとして働いています。具体的にはマシニングソフトウェアエンジニアとして、ユーザーひとりひとりに最適化された広告を表示する機械学習モデルの開発に携わっています。

また、家庭では2児の母として仕事

との両立に奮闘しながら、海外生活は今年で20年目を迎えました。幼いころから海外に憧れがあり、進学した立命館大学の「共同学位プログラム(立命館大学と派遣先大学の学士号を取得)」で留学の機会を得ました。

海外で働くために専門性を身につけたいと考え、カナダのブリティッシュコロンビア大学大学院に進学。統計学を専攻し、博士課程修了までの5年間でカナダのバンクーバーで過ごしました。

高校の文理選択では文系を選びましたが、得意だった数学で活路を見出しました。周囲の学生のレベルの高さに圧倒されながらも、履修できる授業は全て選択し、ひたすら学業に打ち込む日々でした。

私自身、できないことがあると挑戦せずにはいられない性格。挑戦している間は諦めないし、自分が強くなっていくような気がします。振り返ると、楽しいことだけでなく苦しいことも多かったですが、逆境を力に覚悟を持って過ごしました。

次に挑戦したのがテクノロジーの最先端であり、エンジニアの聖地ともいえるシリコンバレーでの就職でした。前職ではドイツ系自動車部品メーカーで、コンピュータビジョン(コンピュータが画像や映像から情報を抽出する技術)のAI研究に携わっていました。社会に直接的な影響を与えたいという思いと、研究中心の業務からキャリアアップも兼ねて6年前にGoogleへ転職しました。

私の働く業界ではメンバーの入れ替わりも多く、組織再編や人員削減なども珍しくありません。厳しい環境で、次

に目指す新たな挑戦はYouTubeをさらに大きくしていくこと。TikTokやInstagramなど競合サービスと比較しても、YouTubeの広告にはまだまだ成長の余地があります。単に「邪魔だ」と思われる広告ではなく、ユーザーにとって関連性が高く、新しい発見があるような有益な広告を選定できるアルゴリズムを開発したいと考えています。



▲チーム同僚とともに

予告 西高同窓会公式LINE

友だち追加のお願いです

西高同窓会ほかの情報発信の窓口として公式LINEを活用して行く準備を進めています。QRコードからまずは友だち追加をお願いします。



浜松西高卒 話題の人紹介

「文部科学大臣賞」受賞 視覚障害者の可能性を 拡大したい

鶴見 昌代 (高43回卒)



私は現在、視覚障害者と聴覚障害者のための国立大学である筑波技術大学で、視覚障害者教育に携わっています。視覚障害者の中には、一般大学で健常者とともに学びたい人もいれば、障害状況に合わせた的確な教育を受けて、しっかり基礎力を身に付けて社会で活躍したい人もいますが、私達の大学は後者の人達のニーズに応えています。

視覚障害者の可能性を拡大したい。その思いから、私は視覚障害者のための

様々なプロジェクトに携わってきました。その一つとして、視覚障害の世界を描く学生を中心としたチームによる映像作品をプロデュースしました。視覚障害による唯一無二の見え方の世界の美しさ、すばらしさを伝えたい。視覚障害はかわいそうなことではなく、魅力なのだ。そんな視覚障害学生の思いから生まれた作品です。この作品は、第二回彩の国市民映画祭グランプリ(埼玉県知事表彰)など、多くの映画祭で受賞・入選し、多くの人に視覚障害の世界を知ってもらうことができました。

また、企業でのダイバーシティ研修でも活用されています。このような取組を評価していただき、昨年は情報処理学会優秀教育賞を受賞し、今年8月には公益社団法人日本工学教育協会の第29回工学教育賞の最高賞である「文部科学大臣賞」を受賞しました。

視覚障害者に対する情報科学教育に携わっていますが、大学卒業までは文系でした。西高を卒業後、大阪大学人間科学部に進学し、卒業後理系に転じて大阪大学大学院工学研究科に進学、数学を使った意思決定理論の研究を始めました。博士号取得後は、大阪大学等での勤務を経て、8年前から縁あつて現在の大学に勤めています。

ぜひ皆様にも視覚障害学生が制作した映像作品をご覧ください。左のQRコードから映像制作プロジェクトのページ」のリンクをたどっていただき、映像作品を鑑賞していただければ幸いです。



いつか母校に南極の話をお届けします

黒田 真央 (高65回卒)



▲南極での釣り

浜松西高等学校2013年卒業の黒田真央です。私は現在、第66次南極地域観測隊の越冬隊員として、南極の昭和基地で活動しています。観測隊には、夏隊と越冬隊があり、越冬隊は一年以上を南極で過ごします。66次隊の越冬隊は31人で、生活基盤を支える設営隊員と、観測・研究を行う観測隊員に分かれています。私は今回、南極の海水下に生息する魚類の生態・行動解明を目的とした研究チーム、通称「お魚チーム」の観測隊員として参加しています。

私は普段、日本学術振興会の特別研究員として、九州大学で働いています。海洋ごみ、特に5mm以下のプラスチックである「マイクロプラスチック(MP)」を研究対象として、その発生源・経路・集積などを船での海洋観測や、数値モデルを使って研究しています。南極地域観測隊として参加する方法は職種によって異なりますが、研究者の場合は南極について研究している機関・研究室がある程度定まっております。そこから参加することが主です。私は元々所属していた東京海洋大学の研究室の教授

がお魚チームの代表者であり、そこからお声掛けを頂きました。

しかし、お魚チームの大半は、魚の行動追跡を行っている生物音響関係の研究者であり、私は研究室こそ同じだったものの、前述の通り海洋ごみの研究者です。そのため、南極では魚の生育環境を知るための海洋環境調査を担当しています。具体的には、雪や海中、生物(魚・ペンギン)の体内や糞に含まれるMPについて調べるため、釣りでの魚体サンプルの捕獲、採水や採泥など、様々な観測を行っています。時にはマイナス20℃を下回り、睫毛さえ凍ってしまうような環境の中で釣りや採集を行うのは想像以上に過酷ですが、これまで殆ど研究されていない南極MPの調査が出来ることに、大きなやりがいを感じています。いつか皆さんにも、南極で得られた成果をお届け出来れば嬉しく思います。

万博でも採用 三次元データで残す “消えゆくもの”の価値

株式会社エリジョン ゼネラルマネージャー

中川 大輔 (高47回卒)



三次元データ処理技術に強みを持つソフトウェア企業「エリジョン」で、点群

データ事業の責任者を務めています。主にプラントや工場、大型建物の改修工事などで活用されるソフトウェアをゼネコンやサブコンに提供していますが、歴史的建造物などの文化財分野にも関わっています。現在開催中の大阪・関西万博のホンジュラスパビリオンでは、当社のソフトウェアとソニーの裸眼立体視技術を組み合わせて、デジタル化したマヤ文明の世界遺産「コパン遺跡」を探検できる展示に協力しています。

エリジョンが文化財に関わるようになったきっかけは東日本大震災でした。被災直後の姿を後世に残すため、東北大学を中心に震災遺構を3Dデータとして記録する取り組みが始まりましたが、取得したデータを活用できないという課題がありました。震災の傷跡が残る仙台で話を伺ったとき、「自分も力になれば」と強く思ったのを覚えています。

文化財の仕事では例外なく、関わる人たちの強い「思い」に心を打たれます。専門家ではない私が、国内外を問わず文化財関連の仕事をさせていただけようになったのは、「期待を超えたい」という「思い」が他の人より強かったからでしょうか。取り組む姿勢や思いを評価して頂けているのかもしれない。

西高時代を振り返ると、個性的な人が多かったように思います。型にはまらずに「これがやりたい。この道に進みたい」と自信を持ち、周囲もそれをリスペクトする。そんな環境があったからこそ、自分の個性と向き合う姿勢が自然と育まれた気がします。

大学院進学で再び上京した際、「浜松に戻りたい」と明確に思いました。振り返れば、それぞれの場面で挫折や失敗もありましたが、恵まれた環境で多くの経験があつてこそ今の今を実感し、「地域や母校に何か貢献できたら」という思いが日に日に強くなっています。

「自分はどうありたいか?」「自分にできる貢献は?」を考え、実現するための取り組みを続けることが大切だと思っています。答えが見つからなくても、自分と向き合い続ける努力ができれば、そして、それを応援してくれる環境があれば、自分らしい道をあゆみ、自分も誰かの成長を支えたいと思えるようになる。そんな流れに貢献するために、具体的に行動していきたいと思っています。

浜松西高同窓会総会

令和7年度 浜松西高同窓会総会が開催されました

高57回同窓会幹事会
代表 河田 宗樹 (高57回卒)

2025年6月14日(土)、グランドホテル浜松において浜松西高同窓会総会が開かれました。斉藤 薫同窓会会長と中村泰子浜松西高校長の挨拶があり、西高の学校行事や部活動、進学状況などの報告と日頃の支援のお礼がありました。議事は令和6年度に行われました百周年記念事業をはじめ、同窓会事業報告、一般会計決算報告および同監査報告、同窓会会則の改定及び令和7年度同窓会役員案の説明があ



りました。また「2025年新春の集い」事業報告とその決算報告、同監査報告、令和7年度の同窓会事業計画、同窓会会報誌の編集方針、令和7年度一般会計予算および「同窓会ホームページリニューアル」などの新事業計画の報告の承認がされました。また、「2026年新春の集い」事業計画の現在の概要についても説明がありました。

「2026年新春の集い」のメインテーマは「新(あらた)」。創立百周年を踏まえ、次の100年に向けた新たな出発の契機となるような会にしたいのとこのでした。中高一貫校としてスタートした母校の同窓生が、先輩方と集う貴重な機会としたいと思っています。今後ともご協力の程、どうぞよろしくお願いたします。

令和6年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計
決算書

前期繰越金	20,606,676円	支出総額	4,827,367円
収入総額	6,090,317円	次期繰越金	21,869,626円

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (B-A)	備 考
前期繰越金	20,606,676	20,606,676	0	前年度繰越金
入 会 金	4,800,000	4,740,000	△ 60,000	高77回卒業生 237名
基 金 利 子 配 分 金	160	160	0	甲子園出場記念基金利子配分金
繰 入 金	1,000,000	1,200,000	200,000	新春の集い余剰金
雑 収 入	20,000	150,157	130,157	預金利子、同窓会名簿代、西高ガチャ売り上げ分担金等
合 計	26,426,836	26,696,993	270,157	

支出の部

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (B-A)	備 考
事務費	1,550,000	1,435,989	△ 114,011	
事務局費	1,400,000	1,340,289	△ 59,711	事務局職員給与、光熱費他
需 用 費	150,000	95,700	△ 54,300	複写機リース料等
会議費	450,000	308,116	△ 141,884	
総 会 費	300,000	190,390	△ 109,610	総会会議費
役員会費	150,000	117,726	△ 32,274	役員会会議費他、香典、弔電、御花代
事業費	4,000,000	3,083,262	△ 916,738	
会 報 費	2,000,000	1,491,227	△ 508,773	ホームページ運営費、会報印刷代・送料、会報編集委員会運営費、百周年記念誌分担金等
助 成 費	1,000,000	592,035	△ 407,965	慰霊祭、激励費、西山賞、講演会謝礼、西山台チャレンジサポート事業等
	1,000,000	1,000,000	0	100周年実行委員会
次期繰越金	20,426,836	21,869,626	1,442,790	
合 計	26,426,836	26,696,993	270,157	

以上のとおり報告します。

令和7年3月31日 会 長 斉藤 薫
静岡県立浜松西高等学校同窓会 会 計 清水 孝彦

上記の決算について証拠書類、出納簿を精査したところ、適正かつ正確であることを認めます。

令和7年4月26日 会計監査 大塚 哲雄 ㊞

令和7年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計
予算書

前期繰越金	21,869,626円	支出総額	7,200,000円
収入総額	5,822,000円	次期繰越金	20,491,626円

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額 (A)	令和6年度 決算額 (B)	比較増減額 (A-B)	備 考
前期繰越金	21,869,626	20,606,676	1,262,950	前年度繰越金
入 会 金	4,800,000	4,740,000	60,000	高78回卒業生 240名 (高77回 237名)
基 金 利 子 配 分 金	2,000	160	1,840	甲子園出場記念基金利子配分金
繰 入 金	1,000,000	1,200,000	△ 200,000	新春の集いの余剰金
雑 収 入	20,000	150,157	△ 130,157	預金利子、同窓会名簿代等
合 計	27,691,626	26,696,993	994,633	

支出の部

科 目	予算額 (A)	決算額 (B)	比較増減額 (A-B)	備 考
事務費	1,150,000	1,435,989	△ 285,989	
事務局費	1,000,000	1,340,289	△ 340,289	事務局職員給与、光熱費、100周年関係
需 用 費	150,000	95,700	54,300	複写機リース料等
会議費	450,000	308,116	141,884	
総 会 費	300,000	190,390	109,610	総会会議費
役員会費	150,000	117,726	△ 32,274	役員会会議費
事業費	5,600,000	3,083,262	2,516,738	
会 報 費	3,500,000	1,491,227	2,008,773	会報印刷代・送料、会報編集委員会運営費等
助 成 費	1,000,000	592,035	407,965	慰霊祭、激励費、西山賞、講演会謝礼、西山台チャレンジサポート事業等
	1,100,000	1,000,000	100,000	ホームページ作成費
予備費	0	0	0	
次期繰越金	20,491,626	21,869,626	△ 1,378,000	
合 計	27,691,626	26,696,993	994,633	

※科目間の流用を認める

創立百周年記念 招待試合を終えた 野球部からのご報告

令和6年10月13日曜日。浜松球場に於いて「浜松西高創立百周年記念招待試合」を開催いたしました。学校創立百周年の記念すべき年を盛り上げる一助となればとの思いから、2年ほど前からこの企画を準備しました。開催にあたりましては、野球部OB会、百周年記念事業実行委員会、高校吹奏楽部、中等部吹奏楽部のご協力をいただくことができたこと、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

対戦校の慶應義塾高校は、令和5年に夏の甲子園で107年ぶりの優勝を果たした名門校であり、また野球の強さだけではなく文武両道や選手の主體的活動を重視するスタイルなど、本校野球部のお手本となる部分も多いチームであります。慶應義塾高校の森林監督と本校の佐藤監督が、慶應義塾大学の同窓生という縁で毎年練習試合を行っており、この招待試合の企画を快諾していただき実現の運びとなりました。

試合当日はさわやかな秋晴れの好天となり、浜松球場には野球部OBのみならず、本校同窓生の方々や地元野球関係者、野球少年など多くの観客が詰めかけ、賑やかな雰囲気の中で試合ができましたことは、現役部員にとっても大変貴重な経験となりました。開会セレモニーでは両校の校歌が演奏され、その際本校吹奏楽部が慶應義塾校歌を演奏してくれました。吹奏



楽部は試合中も本校の応援だけでなく、慶應攻撃時には慶應の応援曲を演奏してくれて、このサプライズには慶應の選手たちも大変喜んでおりました。始球式は本校が1981年に夏の甲子園出場を果たした時の主将である清水淳次さん(高校34回卒)がつとめてくださいました。

試合は本校先発の田川投手の好投で5回まで0-0の投手戦となりました。6回以降は地力に勝る慶應の猛攻を受け最終的には1-9の敗戦となりましたが、本校6回の攻撃で無死満塁から3番千葉選手のレフトオーバーの長打に乗じてうまくたたみかけていけば、もう2-3点は入っていたかもしれない白熱した好ゲームでした。試合終了後、慶應森林監督の「点差ほどの力の差は感じなかった、是非来年はお互い勝ち上がって、次は夏の甲子園で対戦しましょう」という気の利いた挨拶に場内は大いに湧きました。

野球部は昨年は2年ぶりに西部地区ベスト4となりましたが、県大会では早くに敗れ上位進出はなりませんでしたが、間もなく迎える夏の選手権静岡大会では、チーム目標の「甲子園1勝」に向け全力で戦えるよう準備を進めています。1986年に先輩たちが甲子園で勝利し「銀くもりなき」を歌った感動を再び味わえるよう、西山魂で最後の最後まで熱く粘り強く全員で戦いぬきたいと思っております。

最後になりましたが、今回の招待試合に関係してくださったすべての方々への感謝を、今一度申しあげてご報告とさせていただきます。

現在、体操部のない 浜松西高から 高校3年田口のおあさんが インターハイ出場！



県総体の個人で優勝し、全国総体の切符を手にした田口のおあさん。得意の床運動から競技がスタート。高得点を出して勢いにのれたのが大きかったとのこと。以下、本人のコメント。
女子体操競技は、跳馬・段違い平行棒・平均台・床の4種目で構成され、技の難しさだけでなく、動きの正確さや美しさが求められる競技です。私は初めてインターハイに出場します。緊張もありますが、これまで積み重ねてきた練習の成果をしっかりと発揮し、自信をもって自分らしい演技をしたいと

思っています。特に私は床の表現力にこだわって練習してきたので、見ている人の心に響くような演技をしたいです。これまで支えてくれた方々への感謝の気持ちを忘れず、最後まで頑張ります。

陸上部は女子3名、 男子2名がインターハイへ！



6月20〜22日にかけて三重県で行われた東海高校総体において、以下の5名が7月25〜29日にかけて広島県で行われる全国高校総体へ進出することが決まりました。

女子400m鈴木葉菜さん、女子800m小野真那さん、女子400mH植田彩貴さん、男子棒高跳三浦想空さん、男子走高跳、三段跳、ゲンデンフーさん。

浜松西高校の代表であるという自覚を持って、これまでの集大成として練習の成果を発揮できるよう精一杯頑張ります。応援よろしく願います。

ボートの部 高校2年小野明日香さん 女子シングルスカルで インターハイ出場へ！



中学時代にはボートの経験がなかったにもかかわらず、「全国大会に出場したい」という強い思いを胸に、本校ボート部への入部を決意した小野明日香さん。入部当初は女子の先輩がいない環境でしたが、高い志と粘り強い努力によつて着実に力をつけてきました。

現在、ボート部は12名で活動しており、それぞれが目標に向かって切磋琢磨しています。小野さんもその一人として、「自分がどうなりたいか」「そのために今、何をすべきか」を常に考えながら練習に取り組んでいます。こうした日々の積み重ねが、競技力の向上につながっています。

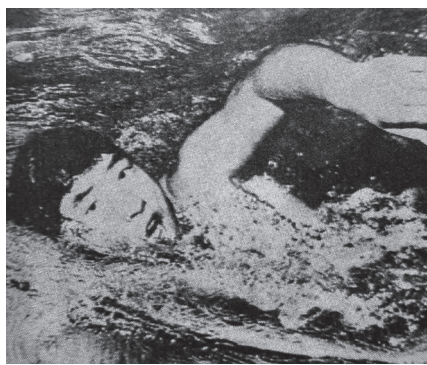
5月17、18日に開催された県予選では堂々の1位通過を果たし、続く東海大会では2位に入賞。見事、インターハイへの出場権を勝ち取りました。ボート競技の厳しさにも屈せず、常に前向

きに努力を重ねる姿に、チームメイトも良い刺激を受けています。

以前は、結果を求めて厳しいトレーニングを取り入れていた時期もありましたが、現在は「競技の結果だけでなく、自ら考え行動する力を育ててほしい」という指導者の思いから、生徒自身が判断し、工夫しながら練習に取り組むスタイルを大切にしています。

9月13、14日には新人戦を控えており、チーム一同、全国選抜大会への出場を目指して現在もトレーニング中です。さらなる飛躍に向けて、一步一步前進しています。

先輩に続け！水泳部 今年は「とびうお杯」40周年



▲古橋廣之進先輩(中18回卒)

水泳部では、「自分と向き合う、感謝の気持ちを持ちながら泳ぐ」ことを目標に取り組んでいます。

本年度は1年生の片山詩織さんが、インターハイ出場、入賞を目標に練習しています。

水泳部の練習では、真摯に泳ぐこ

と、練習内容で、自分の課題を見つけ、解決できるように工夫すること、粘り強く、苦しくてもあきらめないことを意識しながら練習しています。また、当たり前のことですが、一日一日の練習を大切にしています。

また、ご両親をはじめコーチ、チームメイト、担任の先生やクラスメイト、OBの皆様方、水泳部を支えていただいている多くの方々に感謝しながら、全国大会で結果を残したいと部員一同取り組んでいます。

創部35年目を迎える 百人一首部の 応援よろしくお願いします

百人一首部顧問 藤田 信行(高50回)



百人一首部は、創部三十五年目を迎えました。昨年度から中高合同部活動になり、高校生十四名、中部生六名の計二十名が、記念館二階の作法室で活動しています。試合形式の練習が中心で、平日は一試合か二試合、休日は二試

合から四試合を行っています。五月末に静岡市で行われた第四十七回全国高等学校選手権大会(団体戦)の県予選で準優勝を果たし、七月十九日から滋賀県大津市の近江神宮で行われる全国大会への三年連続四回目の出場を決めることができました。出場する生徒は主将から順に、須山栞鈴さん(高三)、榎部心緒さん(高三)、内藤れいさん(高二)、小坂みずなさん(高三)、森田彩音さん(高三)、小林心さん(高一)、石井ひかるさん(高二)、水野杏央唯さん(高三)の八名です。全国の舞台で自分たちの団体戦ができるように頑張ります。

また、七月二十七日から香川県高松市で行われる第四十九回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門(団体戦)の県代表チームには、須山栞鈴、内藤れいさんが選抜されました。さらに、八月二日に東京都墨田区で行われる第二十七回全国中学生選手権大会(団体戦)には、中村葉奈さん(中三)が県代表チームの一員として出場します。

作法室は、夏場はとても暑く、室温が三十度をこえる日も少なくありません。熱中症の予防を徹底しながら、これからの高い目標を目指して活動していきます。応援のほどよろしくお願いたします。

2026年2月に、 美術写真部で部展を 開催いたします！

美術写真部(美術班)は、高校3年生が6名、2年生が5名、1年生が6名



で、春以降は2年生を中心に活動をしています。毎週(月、水、金)の活動で、一年間の主なイベントは、文化祭、西部展、部展(個展)の3つで、それぞれ作品を制作しています。部員同士は先輩、後輩の垣根を超えてとても仲が良く、中学時代は他の部活をやっていた生徒も、高校1年の部活見学の時に、楽しそうな雰囲気になって入部を決断してくれました。

文化祭が終わってからは、秋に開催される西部展に向け絵画作品の制作を開始しています。作品の制作期間は平均で3ヶ月程度かかるため夏休みも活動を続けていますが、2年前から特別教室にもエアコンが設置され、夏場の環境が大きく改善されました。

昨年は、西部展で特選や奨励賞を取ることができ、今年も一人でも多くの賞を取れるように頑張っています。

最後になりますが、高校美術写真部 中部美術部として、2026年2月7日(土)・8日(日)鴨江アートセンターで部展を開催いたします。たくさんの方に作品を見に来ていただけると嬉しいです。

浜松西高中等部 職業体験

**将来を見据え、仕事を通じて
学びの体験を**



浜松西高中等部の2年生は毎年職業体験を行っています。2024年度は12月4日・5日の2日間に48事業所へ訪問しました。

職業体験には2つの目的があります。一つ目は働く人々の姿を実際に見学したり、仕事を体験して、働くことで得られる喜びや働くことの大変さを理解すること。二つ目は将来の進路選択や自己の課題について考えるきっかけを得ることです。

職業体験を受け入れていただいている事業所の業種は多岐に渡り、地域の大病院やクリニック、薬局、動物園、銀行、小学校、幼稚園、郵便局、図書館、建設会社、自動車販売所、ホテル、小売店などに受け入れていただき、西高の同窓生がいっしょに現場もあつたようです。

今回は、以前より職業体験を受け入

れていたいただいている事業所の中から「おおぞら薬局」さんについてご紹介いたします。おおぞら薬局さんは浜松市内8店舗、磐田市1店舗、袋井市1店舗を展開する調剤薬局チェーンです。おおぞら薬局さんでは10年以上前より西高中等部の職業体験を受け入れており、2024年度も2名の学生が体験に訪れました。

職業体験では白衣を着用して処方箋を見ながら調剤したり、患者さんに服薬指導するところを見学します。調剤では軟膏を詰めたり、錠剤を粉砕したり、施設の患者さんの薬を箱に詰めたり、本物の薬剤師さんからの体験をします。立ち仕事での体力、薬を間違えずに出すために集中力、患者さんに伝えるためのコミュニケーション術など、体験した学生さん達は多くの学びがありました。薬局を希望する学生さんは薬剤師を目指していたり、家族に医療関係者がいたり、将来を見据えて選択しているそうです。

静岡県西部地区には西高同窓生が活躍している会社がたくさんあります。職業体験を通して学生が自分の未来の姿を想像し、進路選択に繋がりが、いつか同窓生の皆さんと一緒に働く未来があるのかもしれない。楽しみですね。

高8回卒 同窓会

**米寿を祝いながら
高8回同期生が集いました**

新見 信明 (高8回卒)

2025年5月23日、ホテルクラウン

パレス浜松で同窓会を開催。1956年卒業後、70年を経過し今回6回目の同窓会でした。いずれも節目節目の開催で、60歳の還暦、70歳の古希、77歳での喜寿、80歳の傘寿、昨年、米寿の前年回、そして今回、真に「88歳米寿のつどい」となりました。仲間たちとの出会いが多くあったことが、何よりの喜び、残りの人生の励みとなっています。これからも皆さん、お元気で行きましょう。

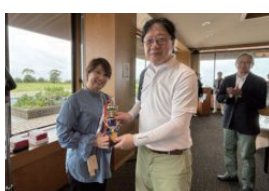


ゴルフ大会

**老いも若きも和気あいあい
ゴルフを通じて交流**

2025年5月21日(水)、浜名湖カントリークラブにて同窓ゴルフ大会が開催されました。当日天気心配されましたが、曇天の下で166人の同窓

生が笑顔でゴルフを楽しみました。競技方法は18ホールストロークプレー、Wペリア方式。同ネットの順位はグロス上位、年長者上位の順で決定。隠しホールのハンディキャップはダブルバーを上限に計算。ハンディキャップのトータルは、男36打・女性40打で打ち切り。JGA後フル規則と浜名湖CCローカルルールを適用でした。使用コースは『中』『浜名湖』『湖見』に別れて一斉スタート。ホールアウトの後、4時から表彰式が行われました。一般の部1位は高45回の水野淳一さん、またシニアの部では高22回の鈴木康文さん、そしてレディスの部では高34回の花田雪乃さんが優勝トロフィーを手に入れました。皆さん、おめでとうございます。次回は第50回という節目の年なので、今回以上の200名の参加を目指します。大勢の参加を心よりお待ちしております。



**浜松西高
アクリルキーホルダー
『通称／西高ガチャ』
あと268個あります。**
(8月25日現在)

西高創立百周年の同窓会主催事業で西高ガチャはお陰様で1万個以上お買上げ頂きありがとうございます。販売収益約32万円を同窓会に寄付出来ました。県外で活躍されている同窓生もわざわざガチャを買いに来たり、希望するガチャが当たらず会場にいた同窓生と交換会をしたりして、ほほえましいコミュニケーションがとれました。想定外でしたが現役の中高生が沢山来てガチャを楽しんでいました。やはり一番人気はセーラー服かな？
実は浜松科学館に少しありますのでご希望の方は早めに。



暫定版 | 令和6年度(令和7年4月進学) 入試結果概要

1 入試合格状況(推薦・総合型等含む)

	令和7年度			令和6年度			令和5年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
国公立大	133	12	145	117	18	135	121	16	137
私立四大	590	60	650	635	91	726	612	69	681
国公立短大	0	0	0	9	9	2	2	2	2
管外大学校	0	0	1	1	1	1	1	1	1
各種専門学校	1	1	1	1	4	2	6		

2 国公立大学

大学名	令和7年度			令和6年度			令和5年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
北見工業大							1		1
室蘭工業大									
帯広畜産大							1		1
北海道大		1	1	1		1	1		1
弘前大									
岩手大	1		1						
東北大	1		1	2	1	3	5		5
宮城教育大									
秋田大	1		1				2		2
茨城大	4		4	1		1	1		1
筑波大	5	1	6	1	1	2	4		4
宇都宮大	1		1						
群馬大									
埼玉大	1		1				1		1
千葉大	4		4				1		1
お茶の水女子大							1		1
東京大	2	1	3	1	2	3	1	3	4
東京外国語大				2	1	3	3		3
東京学芸大	1		1	3		3			
東京芸術大							1		1
東京科学大(東医歯・東工大)	2		2	1		1	3		3
東京海洋大							1		1
東京農工大				1		1	1		1
一橋大	3		3	3		3	2		2
電気通信大	1		1	2		2	1		1
横浜国立大	7		7		1	1	2	1	3
山形大							1		1
上越教育				1		1			
新潟大	1		1				1		1
金沢大				1		1	4	1	5
福井大									
富山大	2		2	2	1	3	1		1
山梨大	1		1	3		3	2		2
信州大	2	1	3	3		3	4	2	6
静岡大	24		24	19	2	21	17	1	18
浜松医大	6	1	7	7		7	2	2	4
愛知教育大	1		1	1		1	1		1
豊橋技術科学大				1		1			
名古屋大	9	1	10	1		1	3	1	4
名古屋工大							3		3
岐阜大	1		1	1		1	2	1	3
三重大									
滋賀大							2		2
京都大	2	1	3	2		2	2	1	3
京都工芸繊維大				1		1			
京都教育大									
大阪大	5		5	6		6	4		4
大阪教育大				1		1			
神戸大				1	1	2	2		2
奈良教育大									
奈良女子大	1		1	1		1			
和歌山大	1		1				1		1
岡山大	1		1	2		2			
広島大	2	2	4	1		1	6		6
鳥取大	2		2						
島根大									
高知大	1		1	1		1			
徳島大	1		1						
鳴門教育大					1	1			
香川大				1	1	2			
愛媛大				1		1			
山口大	1		1	2		2			
九州大	1		1				1		1
九州工業大							1		1
大分大		1	1						
熊本大		1	1						
宮崎大	1		1						
鹿児島大				1	1	2			
鹿児島大							1		1
琉球大									
国際教養大				1		1	2		2
会津大							1		1
公立小松				1		1	1		1
高崎経済大	1		1				1		1
埼玉県立大				1		1			
東京都立大	3		3	4		4	2		2

横浜市立大	1		1	2		2		2
金沢美術工芸大				1		1		
石川県立大				1		1		
都留文科大	1	1	2				1	1
長岡造形大	1		1					
富山県立大	1		1					
岐阜薬科大				1		1		
静岡県立大	6		6	15	1	16	6	1
静岡文化芸大	7		7				1	1
静岡県立大農林環境専門職							1	1
名古屋市立大	1		1	3	2	5	1	1
福井県立大				1		1	1	1
敦賀市立看護大							1	1
京都府立大	1		1	2		2		
滋賀県立大	1		1					
京都市立芸術大	1		1					
大阪公立大(府市合併)	4		4	3		3	2	1
兵庫県立大				1		1	1	1
福知山公立大							1	1
和歌山県立医科大	2		2					
岡山県立大	1		1					
高知工科大				1		1		
下関市立大					1	1		
大分県立看護科学大	1		1					
北九州市立							1	1
福岡女子							1	1
長崎県立大								
宮崎県立看護大							1	1
名桜大					1	1		

3 私立大学(抜粋)

	令和7年度			令和6年度			令和5年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
慶應義塾大	6	2	8	6	1	7	9	3	12
早稲田大	12	2	14	13	3	16	9	2	11
明治大	27	4	31	32	9	41	25	6	31
立教大	8		8	22	4	26	15		15
法政大	13		13	10	4	14	17		17
同志社大	14	4	18	23	2	25	23	2	25
立命館大	72	5	77	77	10	87	92	10	102
関西学院大	9	4	13	13	3	16	12	3	15
関西大	3		3	12		12	19	1	20
近畿大	21	5	26	22	6	28	16	3	19
上智大	2		2	7		7	3		3
中央大	24	4	28	12		12	19	3	22
青山学院大	2	1	3	11	2	13	11	2	13
東京理科大	12	7	19	20	8	28	22	8	30
芝浦工大	10		10	4	2	6	5	3	8
東京農大	8		8	13	1	14	5	1	6
明治学院大	4		4	7		7	6		6
日本大	4	1	5	4		4	12	4	16
東洋大	2		2	11		11	7		7
駒澤大	4	3	7	4	2	6	5		5
専修大	5		5	15	3	18	5		5
常葉大	19		19	17	1	18	27		27
聖隷クリストファー大	7		7	15		15	9	1	10
南山大	21		21	16	5	21	25	3	28
名城大	39		39	28	4	32	25		25
中京大	18	1	19	12		12	13		13
愛知大	17		17	14		14	13		13
愛知学院大	8		8	5		5	2		2
藤田医科大	5		5	7		7	3		3
獨協大	2		2		1	1	1		1
成蹊大	4		4				6		6
成城大				1		1			
学習院大	1		1	1		1	1	1	2
北里大	3	2	5	7	1	8	10		10
順天堂大	9	1	10	8		8	3		3
東海大	7	2	9	7		7	10	2	12
津田塾大	1		1	3		3	1	1	2
東京女子大				1	1	2	3		3
日本女子大	3		3		1	1	1		1
神奈川大	15	1	16	16		16	9	2	11
岐阜聖徳学園大	1		1						
豊田工業大	2		2	3		3	4		4
京都女子大	1		1	4	1	5			
同志社女子大	6		6	5		5	6		6
京都産業大	2		2	7	4	11	6		6
龍谷大	19	1	20	8	1	9	33		33

4 医学部及び管外大学校等

医学部医学科 (2,3と重複掲載)	令和7年度			令和6年度			令和5年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
国公立	6	2	8	6		6	1	1	2
私立(含自治医等)	2	6	8	3	2	5	2		2
管外大学	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
防衛医科大学校			0			0			0
防衛大学校	2		2	1		1	1		1
気象大学校			0			0			0

西山賞受賞者

西山賞とは「全国レベルで特に優れた業績・功績を挙げた生徒に対して、4部門(文化芸術部門、スポーツ部門、善行部門、科学部門)に同窓会から卒業時に授与されるものです。」

中等部

●スポーツ部門

▼陸上部
三浦 康泰
(全中大会・共通種高跳び/U16陸上競技大会 U16種高跳び)

▼水泳部

片山 詩織
(第63回・64回全国中学校水泳競技大会・女子100mバタフライ)

▼テニス部

団体
(第51回全国中学生テニス選手権大会 出場)

●文化芸術部門

▼弦楽部

団体
(日本学校合奏コンクール全国大会グランドコンテスト部門 最優秀賞)

▼科学部

団体
(第23・24回全国中学生創造ものづくり教育フェア 創造アイデアロボットコンテスト全国中学生大会 出場)

高等部

●スポーツ部門

▼陸上部

奥澤 真
(U18ジュニアオリンピック U20日本選手権 全国高校総体 国民スポーツ大会)

▼ボート部

中山 晃孝(令和5年度全国高校選抜)
鈴木 絆斗(令和5年度全国高校選抜)

柔道部

三木 くにこ(全国高校総体)

水泳部

廣橋 侑花
(第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会)

●文化芸術部門

▼弦楽部

団体 日本学校合奏コンクール 銀賞

▼国際文化部

団体
(第13回日本高校生バーラメンタリーディベート連盟杯 出場)

▼百人一首部

団体
(小倉百人一首競技かるた第45・46回全国高等学校校選手権大会 出場)

澤村 夢菜
(小倉百人一首競技かるた第46回全国高等学校校選手権大会 A級 準優勝)

高橋 美玲
(第48回全国高等学校総合文化祭岐阜卓大会 小倉百人一首かるた部門読手コンクール 優秀賞)

叙勲おめでとーございます

令和6年の秋の叙勲を受章した卒業生をご紹介します。同期、先輩後輩を問わず情報をお寄せ頂けると大変助かります。

令和6年秋叙勲

●旭日双光章

▼小出 隆司(高23回卒)
静岡県手をつなぐ育成会 会長

令和7年春叙勲

●黄綬褒章

▼國井 均(高37回卒)
株式会社 芳和建設工業 社長

「幻の2番」に歴史の重み

2025年5月10日 中日新聞記事より

校歌について考えているうち、母校はどうだったのか気になりだした。記者が通った浜松西高(浜松市中央区)の歴史をたどってみると、戦後になって歌わなくなった歌詞が存在していたことが分かった。

「私たちが今回調べてみるまで知らなかった。校歌で3番まであることが多いのに、なぜ2番までなのか、とは思っていませんが」。同窓会事務局の女性(45)は取材に、50年ほど前の創立50周年誌を用意して出迎えてくれた。冊子は前身となった戦前の浜松第二中学校時代の校歌を掲載。1番と3番が今の校歌で、2番は見たことがない歌詞があった。

学校側に尋ねたり、ほかの資料を当たったりしても詳細は判明しなかったが、「幻の2番」となった理由は次の歌詞にありそうだった。「實の校章いや尊く 古き國風慕ひつつ」。戦後にデザインが変更される前の校章は、天皇家に伝わる「三種の神器」が描かれていたためだ。

東京大学の渡辺裕名誉教授の話では、過去の歌詞を「黒歴史」のようにとらえる学校もあるらしい。ただ記者にとってはむしろ、今につながる歴史の重みを感じる貴重な体験だった。



▲2025年5月10日中日新聞記事より

新たな100年のはじまり

浜松西高57回卒同窓会幹事会

2026年新春の集い

メインテーマ「新(あらた)」

1.2 開場 13:30 / 開会 15:00 (予定)
グランドホテル浜松※鳳の間
※2026年より「マリオットホテル」へ名称変更となります



新たな春に、懐かしき再会とともに刻む、次の100年。



2026年新春の集いのテーマは、「新(あらた)」です。57回卒が高校入学の年には中等部が設立され、西高の大きな転換点となりました。卒業生の人数も約半数となった我々57回ではテーマにあるように新たな仕組みを作り、新春の集いを盛り上げようと考えています。

Ticket 本年度は 電子チケット 当日現金払い 2種類の販売となります

高1回
高57回 電子チケット 9,500円
当日現金払い 10,000円

高58回以降 電子チケット 6,000円
※当日現金払いの対応はありません

電子チケットのご購入はこちら



主催：静岡県立浜松西高等学校同窓会 / 同窓会長：齊藤薫 / 幹事会代表：河田宗樹(高57回卒)

【2026年新春の集いお問い合わせ】静岡県立浜松西高等学校同窓会 高57回卒幹事会 〒432-8038 静岡県浜松市中央区西伊場町3-1 E-mail hamanishi.toukatsu@gmail.com